

坂尻海岸における海産動物採集会

伊 藤 十 治

期日： 昭和46年7月29日～30日（2日間）

場所： 福井県美浜町坂尻海岸

講師： 元横浜国立大学教授

理学博士 酒 井 恒 先生

参加者： 羽水高校 15名、光陽中学校10名、足羽中学校23名、進明中学校1名、教育研究所員1名、一般人4名、博物館関係者8名、 計62名

宿舎： 坂尻海水浴場 民宿 “ 仁 平 ”

内容：

(イ) 採集会式順

1, 館長挨拶・講師紹介

1, 講師のお話

1, 一般的な諸注意

- 連絡先の明示 ○ 便所・洗面所 ○ 風呂場の位置 ○ 宿舎でのエチケット
- 食事のあとしまつ ○ 病気予防（食べすぎ、ねびえ） ○ 貴重品・救急箱の明示
- 採集場所における地形の概略 ○ 日程内容 ○ 外出時における責任者の許可。採集時におけるメモ用意、採集時における身の安全、など

(ロ) 日程

29 日午後1時～4時まで磯採集

午後6時 食事

午後7時より採集物の同定、終了後、スライドによる講話

午後10時就寝

30 日午前7時 食事

午前8時30分より磯採集

現場にて採集物の同定を行なう。食事前に解散式。

午前11時30分より食事。

(ハ) スライド内容（1～63コマ）一部のみ摘記

- 1, 日ソ交渉の話題になるタラバガニ。
Paralithodes camtschatica 甲の後縁に突起が6対ある。経済的な重要性：北洋カニ罐詰の原料。ヤドカリ類でカニの仲間でない。福井県沿岸でもまれに採集される。
- 2, 群泳するオヨギピンノ
Tritodynamia horvathi トゲイカリ・マナマコなどと共棲。長崎県島原海岸でゴガイの巣にいたものを撮影した。これは初めての終りであろう。
- 3, 食用になるガザミの脱皮殻
Portunus trituberculatus 食用ガニとして最も普通。敦賀市県水産試験所の今収氏の標本。
- 4, 海草とまちがえるコノハガニ
Huenia proteus ♂♀で形態が異なり、額は単一で側扁、♀では肝域鰓域が扁平葉状に突出している。擬体の一例。
- 5, 太平洋岸でとれたベニズワイガニ
松島沖で採集されたものだが福井県産とはちがいむしろアメリカ産の種類に近い。ズワイガニよりも味はおちるし、深所でとれる。
- 6, 後退するカラッパ(トラフカラッパ)
Calappa Cophos 砂中にもぐって生活する。右鉗にある突起でヤドカリを捕え、左鉗で貝殻をこわしてその中のヤドカリを食べる。
- 7, 海を忘れたサワガニ
Potamon (Geothelphusa) dehaani 内陸の清流に多く一生涯海に下ることがない。日本に産するただ一種類の純淡水産、南方では約5種類ある。陸生にも移行しつつある。
- 8, ヤマトシジミの中にいるシジミピンノ
熊本県菊池川にいたヤマトシジミの中にかくれがに類 *pinnotheridae* がいた。
- 9, 十五夜の月夜に産卵するオカガニ
Cardisoma 沖繩産、完全に陸生となった大型のカニ、草地やマングローブに穴居する。幼生を放出するときだけ♀が海岸に近づく。オウオカガニ *C. carnifex* のことを石垣島では『ミツマトウガン』といい、道の上に一ぱいに移動する。
- 10, 翁面のオキナガニ
Heteropilumnus ciliatus 岩礁産で小型種甲は平たく前方に開き、頗る長い毛が額の前方に揃って生え、胸脚にもまた長い毛がある。酒井博士は福井県にもいるはずだと言われているが今のところ不明。

11, 一匹で3,4人前の料理ができる ノコギリガザミ

Scylla serrata わたりがに類中最大で、暗青色の食用になるカニ。沖縄では『ヤクジャマガニ』（はさみが赤いカニという意味）前側縁には等大の9歯があつてまるでこぎりのようだから。

12, 陛下の御研究 オオタマウミヒドラ

Hydrocoryne miurensis 月旅行におけるロケットの切りはなしと同様にして水母がでる。世代交番をする。潮留にいる。岩石上に付着する群体は数個~数十個の個虫よりなる。

13, 擬装上手なイソクスガニ

Tiarinia cornigera サンゴ礁間潮帯や水槽中では海草・海綿などをはさみで適度に切り自から甲や胸脚に植えつける習性が楽に観察できる。

14, 芸術家作品のアオイガイ(カイダコ)

Argonauta argo 殻が海岸に漂着するので古くから知られ、葵介と呼ばれていた。殻は白色半透明で螺旋状になっている。島根県産。

15, ごみをくっつけるシラヒゲウニ

Tripeustes gratilla とげは短かく先端がとがっている。また、とげは白、白と赤褐のまじったものなど個体変異がある。福井県沖でもとれる。沖縄産、ラッパウニ科のもので、ギリシャ語では毒気を吐きだすものという意味がつけられている。

16, 色彩のきれいなイトマキヒトデ・アカヒトデ・キヒトデ

Asterina peetinifera イトマキヒトデ、かつて朝鮮では乾燥して“霊亀”として虫くだし薬として服用していたという。内湾の浅所で日本海側に多い。

Certonardoia semiregularis アカヒトデ、腕にコブ状の突出があるのはアカヒトデヤドリニナの内部寄生による。

Distolasterias elegans キヒトデ、生時は黄色、腕の先は紫色。

17, 砂の上の1ドル銀貨(sand dollars)といわれるタコノマクラ

Clypeaster japonicus 英名ではCake urchins; sea biscuits という。敦賀湾水島沿岸で採集される。生時は暗褐色だが、傷を受けると体内の緑色色素がでてきて緑色となる。

18, 食用となるマボヤ

Halocynthia roretji 東北地方(岩手・宮城県など)では外皮を除いて筋膜体を生食する。一種の芳香があつて珍味である。外国(フランス・イタリア)でもマボヤとはち

がうがやはりこの仲間を食用としている。

19. ひげがひらたいウチワエビ

Ibacus ciliatus 木にとまったセミのような形で腹部を甲の腹面下に折り曲げて水深10~300 mの砂泥底にて生活する。

20. 植物みtainな動物

コケムシ・イソバナ・フトヤギ・シロカヤ・カイウミヒドラ・ウミシバ

o *Bryozoa* コケムシ類、4億年前(古生代の始め)から現われている。すべて群体をつくっている。種類(約2万種のうち3/4は化石)はきわめて多い。

o *Melithaea flabellifera* イソバナ、群体は一平面上に広がり、小枝はしばしばゆ着して綱目状。低潮線下20 mまでの流れのはやい岩礁壁に群生。群体上によくウミウサギガイ類(*Ovulidae*)、イソバナヒラムシ *Apidioplana okadai*:ニシキクモヒトデ *Ophiothela donae* がつく。

o *Plexauridae* フトヤギ類、群体はほぼ一平面上に扇状に分岐している。枝は太く、がんじょうで曲げにくい。群体にはしばしばウグイスガイ類 *Pteridae* がつき、ちょうど木にとまっているウグイスの感じがでている。

o *Aglaophenia whiteleggei* シロカヤ、内湾の浅い所に普通。群体はせん細な感じ、幹から各方向に不規則な羽状の枝がでている。刺胞毒は人体に感じる。

o *Hydractinia epiconcha* カイウミヒドラ、群体は、腹足類(*Pollicia mollis* シワホラダマシ)の貝殻上に着生して橙または桃色を呈する。ヒドロ根は、ゆる合して膜状となり、内部にキチン質の骨格をつくる。潮間帯岩礁に普通。

o *Sertulariidae* ウミシバ類、刺胞体がない。ヒドロ莖はおもに円筒ないし深いつぼ形である。浅海の海草などの上にごく普通にみられる。

福井県教育研究所

坂尻海岸に於ける海産動物相
(1971. 7. 29~30)
(目録のみ)

動物門	総 数 番 号	種 名	潮間帯		亜 潮 間 帯	潮 留 り	岩 礁	石			貝 殻	泥 砂 底	海 綿、 その他 生物	船 底	淡 水 の 注 ぐ	備 考
			上 中	下 部				割 目	の 間	の 下						
魚	1.	イシダイ			●	●	●		●			●				食用・雑食性・ウニなど食う 石の穴などに産卵
"	2.	ナベカ			●	●	●		●							
"	3.	イソハゼ			●	●	●		●							
"	4.	アゴハゼ			●	●	●		●							
"	5.	クサフグ			●	●	●		●							普通種・ドロメとよく似ている 腸に猛毒・砂にもぐる。
原索	1.	キクイタボヤ			●		●		●							極めて普通種
"	2.	アカイタボヤ			●		●		●							沿岸浅所に最も普通種
棘皮	1.	トゲクモヒトデ			●		●		●							本邦周辺に広く分布
"	2.	クモヒトデ			●		●		●							豊富に分布
"	3.	イトマキヒトデ			●		●		●							極めて普通種
"	4.	ヒトデ			●		●		●							カキ養殖に大被害
"	5.	アカウニ			●		●		●							日本特産1属1種
"	6.	パフソウニ			●		●		●							同上・極めて普通種
"	7.	マナマコ			●		●		●			●				
節足	1.	ウミグモ sp			●		●		●							幼生はアサリなどに寄生
"	2.	カメノテ					●									寄生生活
"	3.	ウソモンフクロムシ					●									

動物門	総数番号	種名	潮間帯		重潮間帯	潮留り	岩礁	石			貝殻	泥砂底	海綿・その他生物	船底	淡水の注ぐ	備考	
			上部	下部				の割目	の間	の下							
節足	4.	ニホンソコツプムシ(ウミセミ)		●	●	●	●					●	●			普通	
〃	5.	ウミミズムシ		●			●		●			●	●				
〃	6.	ヨコエビsp		●			●		●			●	●				
〃	7.	ハマトビムシsp			●		●				●	●	●				
〃	8.	イソスジエビ			●		●					●	●			食用よりも釣の餌	
〃	9.	サラサエビ			●		●					●	●			暖海性種	
〃	10.	イソカニダマシ			●		●					●	●			最も普通種・外洋性	
〃	11.	ホシヤドガリ			●		●					●	●			同上	
〃	12.	イボガニ			●		●					●	●			外洋性	
〃	13.	フクイカムリ			●		●					●	●				
〃	14.	ツノダシヤワラガニ			●		●					●	●				
〃	15.	ヨツハモガニ			●		●					●	●				
〃	16.	ヨツハモドキ			●		●					●	●				
〃	17.	フタバベニツケガニ			●		●					●	●				
〃	18.	ケブカアワソブガニ			●		●					●	●				
〃	19.	イワガニ(アブラガニ)			●		●					●	●				
〃	20.	イソガニ			●		●					●	●				
〃	21.	ケフサイソガニ			●		●					●	●				
〃	22.	ヒライソガニ			●		●					●	●				
軟体	1	ウスヒザラガイ			●		●										最も普通種

動物門	総番号	種名	潮間帯		亜潮間帯	潮留り	岩礁	石			貝殻	泥砂底	海綿・その他生物	船底	淡水の注ぐ	備考
			上部	下部				割目	の閉	の下						
軟体	26.	ヒバリガイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			岩礁に足糸で付着
"	27.	イシマテガイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			食用
"	28.	ナミマガシワガイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
"	29.	イワガキ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
"	30.	マダコ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
触手	1.	コブコケムシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			極めて普通
環形	1.	ウロコムシ sp	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
"	2.	シリス sp	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
"	3.	ゴカイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
"	4.	スゴカイイイソメ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
"	5.	スナタバムシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
"	6.	カナムリゴカイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
"	7.	フサゴカイ sp	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
"	8.	カンザシゴカイ sp	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
紐形	1.	ヒモムシ sp	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
扁形	1.	ウスヒラムシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
"	2.	ツノヒラムシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
腔腸	1.	ウミシジバ sp	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			極めて普通
"	2.	シロガヤ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			群体生活
"	3	ミズクラゲ (ヨツメクラゲ)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			最も普通の水母

動物門	総数番号	種名	潮間帯		亜潮間帯	潮留り	岩礁	石			貝殻	泥砂底	海綿その他生物ウ	船底	淡水の注ぐ	備考
			上中	下部				割目	の間	の下						
腔腸	4.	ウミウチワ			●		●									
"	5.	テツイロイソギンチャク			●		●									多毛虫と共生・群体生活
海綿	1.	石灰海綿 sp		●	●	●	表						●			層をなして付着 内湾の養殖施設などに多い
"	2.	ダイダイイソカイメン			●		表	●								
"	3.	ナミイソカイメン			●		表	●								
"	4.	ムラサキカイメン			●		表	●								

参考書

- ・新日本動物図鑑(上中下) 岡田 要他 北陸館 昭, 44 上, 中, 下
- ・改訂増補日本動物図鑑 内田 清之助他 北陸館 昭, 31
- ・原色動物大図鑑(I, II, III, IV) 岡田 要他 北陸館 昭, 42 I, II, III, IV
- ・海岸動物(標準原色図鑑全集16) 西村 三郎他 保育社 昭, 46
- ・相模湾産蟹類 酒井 恒 生物学御研究所 丸善
- ・動物系統分類の基礎 内田 享 北陸館 昭, 43

(略号)

春蛙動物(魚類)	5種	環形動物	8種
原索動物	2"	紐形 "	1"
棘皮 "	7"	扁形 "	2"
節足 "	22"	腔腸 "	5"
軟体 "	30"	海綿 "	4"
触手 "	1"		
		計	87種